

9/2 朝日

進駐軍や闇市 負けたと実感

無職

(兵庫県 85)

1945年3月17日の神戸大空襲の後、自宅から学徒動員先の郵便局まで何人もの遺体を乗り越えながらやっとのことで行く、郵便局も焼けていた。動員先がなくなり女学校に戻った私は8月15日、直立不動のまま初めて天皇陛下の玉音を聴いた。日本が負けると思っていなかった私はショックを受けたが実感はなかった。

戦時中、大本営発表は日本有利の情報ばかり。銃後の守りで食糧難の中でも「欲しがりません勝つまでは」の精神。苦しいとは思わなかった。お国のためと洗脳され

ていたからだ。ただ、白いご飯が食べたいと思った。戦後、進駐軍からチョコレートやチューインガムは絶対にもらうなと学校から言われたが、のどから手が出るほど欲しかった。街中を走り回る進駐軍や闇市の様子などを見て、日本は戦争に負けたのだと観念した。

今は戦争を知らない世代が実多い。60代の方にすら「学徒動員は断れなかったのか」と聞かれたこともある。戦争が残した傷に今も苦しんでいる人がおられることを忘れてはいけない。今、安全保障関連法案などで不穏な空気が流れ、不安に思っている。戦争は絶対に避けなければならない。